

第17回見学会 平成28年10月27日(木)

南極観測船 SHIRASE(しらせ)&サッポロビール千葉工場

絶好の日和に恵まれて向かったサッポロビール千葉工場。工場正門横の岸壁には「SHIRASE」が巨体を係留されていました。この船の概要は全長百三十四m、幅二十八m、ヘリコプター三機、雪上車やトラック、燃料食料品千トン積み、総乗員二百三十名、一万一千トン、三万馬力(客船の三倍)、すべて電気で動き一、五メートル厚の氷を連続破碎する海上自衛隊の砕氷艦でしたが現在はウエザーニューズ関連団体の所有になっています。十一時から見学開始、ガイドの案内で二階分ほどあるタラップを登って乗船、最初に広い部屋で事務局長からビデオによる南極での「SHIRASE」の活躍ぶりを、次にガイドの方々を紹介されました。元海上自衛隊でこの船の乗組員だった方々と船橋市観光ボランティアの方です。見学者の大半が滋賀県人会員だったので事務局長が南極観測隊と滋賀県について西掘榮三郎隊長などの話を出され、親しみが湧きました。見学は二手に分かれて実施。船体後部のヘリコプター飛行甲板や格納庫から始まって、ブリッジ、乗組員の食堂、厨房、寝室、医務室、理髪室等々見学しました。

船は日本から一万四千キロ離れた南極まで、途中オーストラリアで観測隊を載せて昭和基地に向かったそうです。普通の船は横揺れを防ぐため、船底の両側に板状のものを装備し横揺れを防いでいるそうですがこの船は砕氷船なのでこれがないため横揺れが激しく観測隊員を悩ませ、最高で左に五十三度傾いたことがあるそうです。食堂は階級によって違いますが食べるものは全員一緒、理髪師がないので乗船者が交互に散髪をしていたとか、虎狩頭の人が多かったようです。最後に船首をバックに記念撮影、大きくて人間より荷物中心の船のため階段が急で狭く大変でしたが、楽しく有意義なひと時でした。

次にサッポロビール千葉工場の見学。サッポロビールの全生産量の四割を生産している工場との事ですらりと並んだ発酵タンクや熟成タンクに圧倒されました。ビールの試飲と上手な飲み方を教わり見学で疲れた喉を潤し、再会を約して解散しました。